

【八幡寺大般若經奥書】

五一四

大般若經第三百九十五

建永元年^{歲次丙寅}六月廿二日午時書畢。

願主 平朝臣憲基

【八幡寺大般若經奥書】

五一五

大般若經第四百 八幡寺

當社 八幡宮大般若經一部奉修覆黃染并軸表紙組帙箱唐櫃等者也。

貞治三年^{甲辰}八月廿三日

能州上町野御庄麥野村預所菅原尙重

【八幡寺大般若經奥書】

五一六

大般若經第五百七十八

應永六年^{歲次己卯}姑洗上旬

鳳氣至郡上町野柳田村青蓮寺書寫畢。執筆實宗

【八幡寺大般若經奥書】

五一七

大般若經第六百 八幡寺

當社 八幡宮大般若經一部奉修覆黃染并軸表紙組帙箱唐櫃等者也。

貞治三年^{甲辰}八月廿二日

唐折之修覆八幡寺住持賢永

(八幡寺大般若經の奥書を有するもの、中、最古の年月を取りて今ここに載す。)

十月廿二日。足利義詮、加賀守護富樫昌家をして、白山衆徒の山城臨川寺領加賀郡大野莊に諸公事を停めしむ。

【臨川寺重書案文】 山城

五一八

臨川寺領賀州大野庄事、被止大嘗會役夫工米以下諸公事之條、貞和官符先立施行畢。而白山衆徒等稱造營課充其役云々。事實者太不可然。不日可停止其責狀如件。

貞治三年十月廿二日

在判^(足利義詮)

富樫竹童殿^(昌家)

十二月十一日。兵庫允惟清、鳳至郡内保村尼空勝知行分の河成を認む。

【總持寺文書】 鳳至郡

五一九

能登國樺比御厨庄尼空勝知行分内保村公田河成事、本田七段歟、而新河成貳段之由、預所見知候間出狀畢。然者早向後者、可爲五段之所役也。仍爲後證之狀如件。

貞治參年十二月十一日

兵庫允惟清 在判

十二月十三日。峨山紹碩、再び鳳至郡總持寺住持職のことに就いて垂示す。

【總持寺文書】 鳳至郡

五二〇

惣持寺山門住持職事

紹碩門下、守嗣法次第、五ヶ寺可住持。若此中有山門廢者、法眷等相寄可評定之。仍爲後證垂示如件。

貞治三年十二月十三日

惣持紹碩 在判

(正平十七年二月九日の條参照。)

十二月廿六日。足利義詮、山城南禪寺領能美郡得橋郷等に舊の如く國司・諸司等の入部を停め、諸役を免除す。

【南禪寺文書】 山城

五二一

南禪寺領遠江國初倉庄内江富郷・吉永郷・鮎河郷・藤守郷・同國新所郷、加賀國得橋郷・同郷内佐野村・佐羅村・今村・符南社神主職、并得南・益延・長恒等參名、同國等間東保、但馬國池寺庄、幡磨國矢野別名、同國大塩庄、備中國三成郷等事、如建武二年四月廿二日官符者、應停止國司・守護使入部、并官使・檢非違使・院宮諸司、及神人・甲乙人等亂入、造諸社以下大小國役、關東鎮西早打役云々。任彼狀不可有相違之狀如件。

貞治三年十二月廿六日

權大納言 在判^(足利義詮)

當寺長老

正平二十年 乙巳

紀元二〇二五

貞治四年 京都